

全国の農業高校の新戦略 “第3次アクションプラン”

1 5つの基本方針（目指す学校像）

構造図

農業高校のミッション



2 10の行動計画

No.	行 動 計 画	キーワード
1	「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	アグリマイスター顕彰
2	「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	グローバル教育
3	「地域農業の生産を支える」教育を行います。	生産技術・経営
4	「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	地域産業貢献 6次産業化
5	「地球環境を守り創造する」教育を行います。	環境技術・創造
6	「食農」教育を推進します。	食農教育
7	「地域資源を活用する」教育を行います。	資源活用
8	「地域交流の拠点となる」教育を行います。	ヒューマンサービス
9	「各種農業関係機関・団体と連携した」教育を行います。	地域連携
10	「地域防災を推進する」教育を行います。	地域防災

菊池農業高等学校の行動計画（スクールアクションプラン）

5つの基本方針	10の行動計画	重点取組	具体的方策
グローバル教育で人材を育てる学校	「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	地域の行事や各種団体等との交流を通して、学校で学ぶ知識・技術の定着と深化を図る。	①地元のイベントや行事に参加し、学校で学んだ知識・技術を生かして販売やボランティア等の活動を実践する。 ②交流活動を通して、生徒一人ひとりが自信を持って学校PRを行う。
		資格取得を推進し生徒の能力を引き出すことで、進路実現に繋げる。	①小型特殊車両取扱資格、危険物取扱者資格などの実用資格に取組む。 ②農業検定やFFJ検定等に取組み、アグリマイスター顕彰を受け進路実現に繋ぐ。
	「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	海外インターンシップや視察研修を推進し、グローバルな視点で物事を考える力を身に付ける。	①海外インターンシップ事業や農業関係高校海外派遣事業等に参加させ、体験報告等を通してグローバル化を意識づける。 ②タイ王国からの農業研修生との交流を通して、国際交流を体験させる。
		地元の文化や伝統を学び、郷土の良さを理解し、地方創生に貢献する人材の育成を図る。	①農村文化を理解するために地元の行事や催事等に参加し、伝統芸能や郷土料理等を学ぶと共に郷土愛を育てる。 ②環境保全と農業の関わりについて学びを深め、農業による地方創生を考える力を養う。
地域社会・産業に寄与する学校	「地域農業の生産を支える」教育を行います。	農業担い手として、専門の知識・技術習得のための基礎基本の徹底と、経営力向上のための実践教育を充実させる。	①農業経営者育成高等学校に学ぶ自覚を促し、科目「農業経営」における簿記等を積極的に導入し、専門性向上を図る。 ②農家との交流や販売会等における消費者ニーズのリサーチを通して、経営感覚の醸成を図る。
		行政と連携した就農教育の推進を図るとともに、農業の魅力をPRする。	①行政と連携し、就農支援事業等の勉強会を実施するとともに、儲かる農業をPRする。 ②OＢや地域農家との連携による実習体験や施設見学等を企画し、生徒の興味関心を高める。
	「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	現場実習やインターンシップを通して職業観を育み、勤労意欲や就労意識の向上を図る。	①地元の農家や企業での体験実習を通して勤労観を高めるとともに、体験報告発表により職業観の深化を図る。 ②体験実習により法人への就職や農業関連企業への興味関心を向上させる。
		プロジェクト学習や農業クラブ活動を通して、6次産業化を学び、地方創生における農業の展望を考える。	①プロジェクト学習を通して、探究心や科学性を身に付け起業化について興味関心を持たせる。 ②大学や地元農家等との連携による商品開発や販売事業を展開し、農業の活性化と地方創生につながる6次産業化に取組む。
地球環境を守り創造する学校	「地球環境を守り創造する」教育を行います。	環境に優しい農業をテーマに行政とタイアップした認証制度に取組み、環境に配慮した農業を実践する。	①循環型農業の理論を学び授業やプロジェクト研究で実践する。 ②行政と連携したGAP認証制度に取組む。 ③環境に配慮した農業の展開に取組む。（熊本県エコファーマー認証の取得）
		日頃の学習活動や環境美化ボランティア活動を通して、地球環境における農業の果たす役割について学ぶ。	①景観整備や地下水保全など農業の多面的機能を理解させ、農業による環境保全に取組む。（地域の花壇づくり等） ②農業技術を活用した環境保全活動やボランティアに取組み、農業の果たす役割を広く学ぶ。
	「食農」教育を推進します。	農業が食の安全・安心の根幹を担っていることを日頃の学習活動の中で展開し、意識付けを図る。	①寮への食材提供の他、地域の学校給食の食材として提供する取組み。 ②幼稚園、小学生に対する食育教育支援活動を展開する。
		命を大切にする教育をすべての領域において指導する。	①1年生全員に田植えと稲刈りを体験させ、収穫米を試食する。 ②小学生対象の「酪農教育ファーム」活動を通して命の大切さを学ぶ。 ③寮を活用した研修当番時に食農教育を展開する。
地域交流の拠点となる学校	「地域資源を活用する」教育を行います。	地元農家との交流や体験学習を通して、特産品や農産物生産技術を学び、新たなブランド品づくりを目指す。	①農家視察や体験学習を通して交流を深め、生産や加工技術の情報を得、農家と共に商品開発に取組む。（ドライフルーツ等） ②環境に配慮した農業に取組み、農畜産物のブランド化を図る。
		地元で活躍する農業経営者や起業化した経営者との交流を通して、地域農業の担い手を育成する。	①優良経営の農家を招いた講演会及び専門分野別のディスカッション等を実施する。 ②起業化した農家の事例や視察を通して、農業の企業経営化を学ばせる。
	「地域交流の拠点となる」教育を行います。	行政と連携し、地元農家や農業法人、NPO等との交流を通して、農業で地方創生を目指す人材を育成する。	①プロジェクト学習による地域連携と、農業クラブ活動を通じた農村活性化に取組む。 ②科目「グリーンライフ」において、地域の農村文化を学習し、伝統文化を活かした地域活性化に取組む。
		大学や地元企業、農家と連携し、農業を中心とした6次産業化に取組む。	①大学と連携した農業振興に取組み、地域活性化への興味関心を高め、地元定着に繋げる。 ②企業や農家、行政等と連携して農産物の加工販売までの学習に取組み、6次産業化を図る。
	「各種農業関係機関・団体と連携した」教育を行います。	地域に開かれた学校づくりとして、小学生の体験学習等を実施する。	①学校が有する農業資源の有効活用（乗馬、搾乳、ブドウ狩り）による体験学習の実施。 ②花の栽培や芋ほり等の体験学習の実施。
		地元JAや行政等と連携した体験学習や販売を通して、生徒のレベルアップと農業の魅力づくりに取組む。	①JA菊池と連携した小学生の農業体験学習に取組む。（JAまんまキッズスクール等） ②JAグループの支援を受け、農業高校フェアにおける学校PRと農業の魅力化に取組む。
地域防災を推進する学校	「地域防災を推進する」教育を行います。	地震被害の経験を糧にして、防災型コミュニティスクールを設置し、地域と連携した防災教育に取組む。	地元の行政、警察署、消防署、小中学校管理職、地元住民代表等に協力依頼し、防災型コミュニティスクール（学校運営協議会）を組織する。防災訓練や危機管理マニュアル等の評価を依頼し、防災教育の深化を図る。